

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上火災保険株式会社

獨協中学・高等学校

緑のネットワーク委員会



獨協中学・高等学校 緑のネットワーク委員会のみなさん

三井住友海上火災 駿河台本社ビルで環境と減災への取組みを学ぶ!

緑化に取り組む

三井住友海上が本社である駿河台で緑化に取り組み始めたのは1984年、今から30年以上も前。屋上庭園を備え、敷地割合が4割を超える緑化は画期的なことでした。ではなぜ取り組んだのか。それは地域のみなさまからの「まちに緑を増やしてほしい」という声に応えるためでした。

駿河台の緑地

1984年の駿河台ビル竣工当時から、都心の本社ビルのあり方として、「周辺環境との調和」を理念の一つとして掲げ、既存樹の活用や高木の植栽に耐えられる構造を供えた屋上庭園を築造しました。企業緑化取組の先駆けとして、また生物多様性に配慮した緑化として外部からも高い評価をいただいています。

蓄雨の取組みとビルの水循環

1) 蓄雨取組み

- ・「三井住友海上駿河台ビル」本社ビルとして1984年に竣工
- ・「雨水の有効活用を」という当時社長のアイデアから、地下に雨水槽を設置
- ・3500㎡という巨大な「蓄雨」が可能に

2) ビルの水循環

- ・雑排水、厨房排水を複数の設備で中水処理
- ・トイレの洗浄水、本館前庭庭園の散水として再利用
- ・貯水槽で貯めた雨水についても過処理をして上記目的で再利用

3) 蓄雨による減災効果

- ・ゲリラ豪雨等短時間に大量の雨が降る際の下水道の負担を減らし、内水氾濫のリスクを低減する効果
- ・台風等事前に大雨が予測される際に雨水槽の水を事前に放出することで、下水道の負荷を軽減



ECOM駿河台 研修風景



三井住友海上 ECOM駿河台



駿河台の緑地(屋上庭園全景)

獨協中学・高等学校 緑のネットワーク委員会

感想

吉田和貴さん(獨協高校3年)

この度は、本社ビルやECOM駿河台の活動について教えていただきありがとうございます。御社はいち早く環境というものに目を向け緑化などの活動を行い、地域の小学生へ田圃を貸出すなど未来の社会を作っていく子供達に環境を意識してもらい、地域に密着した様々な活動をしていました。この活動は自分たちにも通じる場所がありました。まだまだ自分たちは未熟です。今回、会えたのをきっかけに繋がりをもち、そして、様々なことを吸収していきたいなと思いました。



大久保 誠也さん(獨協高校2年)

御社ビル屋上やECOM駿河台の環境に配慮した設備を見学することで多くの人に自然環境を身近に感じてもらうための工夫を学ぶことができました。私たちが最近活動を進めている環境ファシリテーター活動をより充実させていくための今後のヒントを得ることができました。今回参加した私たちの一人一人に活動の可能性と勇気を今回の機会を与えていただきました。普段、外部との関わり方があまりない委員会ですが今回の体験はとて貴重なものになりました。ありがとうございました。



野々村 美徽さん(獨協中学3年)

僕らの委員会「緑のネットワーク委員会」は緑を繋ぐ取り組みをしてきました。名前もそれに由来します。このネットワークというのは緑と緑、そして緑と人を繋ぐことなどを意味しています。これが環境の考え方なのだと思います。御社を訪れてこの考えは確固たるものとなりました。また人と人とが繋がればもっと環境を良くしていけると思いました。これからも僕たちはどんどん活動を広げたいと思っていますので、よろしくお願いします。



「緑のネットワーク委員会」の紹介

僕達「緑のネットワーク委員会」は「21世紀を生きていくためには、他の生き物との共存共栄が必要である。」という理念をもとに活動をしています。主な活動内容は、屋上緑化、箱ビオトープの設置、そしてそれを通じた地域との交流です。日々の活動では、屋上緑化のために屋上の掃除や手入れ、文化祭等の発表に向けた植物の成長測定や考察、箱ビオトープのメンテナンスなどを行っています。屋上ではゴーヤ、ナス、ピーマン、トマト、アケビ、ブドウ、パッションフルーツ、メロンなどの作物を育てています。地域交流としては、持ち運び可能なビオトープ(箱ビオトープ)を小学校に持って行って設置し、それにまつわるメダカや生態系についての授業も子供たちに行っています。さらに屋上の野菜が収穫の時期を迎えた時には近所の小学校の子供達を呼んで収穫の楽しさを味わっています。小学生から家でも育ててみたいとかすごく美味しいなど言われた時、僕らもやっていたよかったと思う瞬間でもあります。